

## 問題【国語】

次の問いに答えましょう。

- (1) 「五月晴れ」の読み方を答えましょう。
- (2) 「五月雨」の読み方を答えましょう。
- (3) 下の俳句は正岡子規の一句です。

〈露店の傘負け顔や五月晴〉

なぜ、露店の傘は負けなのか説明しましょう。

## 豆知識 雑学コラム

### 「五月晴れ」の時期はいつ？

5月になりました。5月と聞くとさわやかな陽気の日が多い時期ですよね。「五月晴れ」と聞くと、5月のさわやかな過ごしやすい陽気を連想する方も多いかもしれませんが、もともとはそういう意味ではありません。では、どういう意味なのか、今回は五月晴れについて掘り下げてみましょう。

江戸時代まで、日本の一年は旧暦(太陰太陽暦)で決まっていました。5月を「さつき」、12月を「師走」と呼ぶのはこの旧暦の名残です。この旧暦での一年は、今とは少し違い、2月ごろにお正月がきていました。ちょうど、節分のころですね。節分の豆まきは旧暦で一年が終わることから、その一年の悪いこと(=鬼)を追い出し、次の一年のいい年になるように福を呼ぶ行事が由来になっています。この節分の由来をしておくと、旧暦の一年の始まりは節分のころだと覚えやすくなると思います。

旧暦の1月が今の2月だとすると、旧暦の5月が今の6月だとわかると思います。ちょうど、梅雨の時期ですよね。「五月雨」は旧暦5月の梅雨の時期の長く続く雨のことです。「五月雨式に攻撃する」のように長くだらだらと続くものの例えとして使われることもありますよね。「五月

晴れ」はこうした梅雨の雨の間の晴れのことを言います。5月のさわやかな過ごしやすい陽気との違いがわかったでしょうか。

俳句の世界では、「五月晴れ」は夏の季語で、多くの俳句に詠まれています。正岡子規の「露店の傘負け顔や五月晴」は梅雨の時期に傘がいらなくなった五月晴れの日の様子の俳句です。梅雨の時期なので露店主も傘が売れると思ってたくさん用意したのでしょうか。ところが五月晴れの空で傘がいらなくなってしまいました。天気は晴れなのに気分が晴れない露店主の様子が想像できる一句ですよね。このように、俳句の季語は旧暦に従っているものが多くあります。内容をしっかり理解するために旧暦についての理解を深めてみましょう。

一方で、現在の暦の5月に合わせて、「五月晴れ」をさわやかな過ごしやすい陽気という意味で使うことも多くなってきました。人によっては従来の梅雨の間の晴れを意味する「五月晴れ」と区別するために、5月のさわやかな過ごしやすい陽気を「五月晴れ」と呼ぶ場合もあるようです。このように暦の変化によって、言葉の使い方も広がっているんですね。

## 【解答】

- 「五月晴れ」の読み方は「ごがつはれ」(1)、「五月雨」の読み方は「ごがつぼり」(2)、「五月晴れ」の時期は5月(旧暦5月)の梅雨の時期(1) (2) (3)